

学術館について

1958年(昭和33年)に山梨大学学芸学部(現・教育学部)を卒業された大村智(おおむらさとし)博士が、2015年(平成27年)12月にノーベル医学・生理学賞を受賞されました。山梨大学では、これを機に「山梨大学 大村智記念基金」を設立し、大村博士の偉業を称え、そのご功績を末永く顕彰するため「大村智記念学術館」を創設しました。

武田神社へ真っ直ぐに向かう武田通沿いに位置し、建物入口は山梨大学教育学部の前身、江戸昌平黉(しょうへいこう)の分校として創設された「徽典館(きてんかん)」2代目校舎(1884年(明治17年)再建)を参考に八角三層の歴史的建築と近代建築が融合したデザインとなっています。

1階は、大村智博士が山梨大学在学時の卒業論文やゆかりの品々を展示しているほか、本学創立のルーツである徽典館に関する資料の展示、本学の学術資源や研究成果などの特別展示などを行っています。また2階には、130人が収容できる大村記念ホールを設け、講演会やシンポジウム、各種イベントなど多目的にご活用いただけます。

地域の基幹的の大学として「地(知)の拠点」の役割を担う山梨大学において、「大村智記念学術館」は地域コミュニティの中核的存在となり、学術・文化・芸術の創造と発信の拠点として、山梨大学の新たな歴史を刻む象徴的な建物となります。

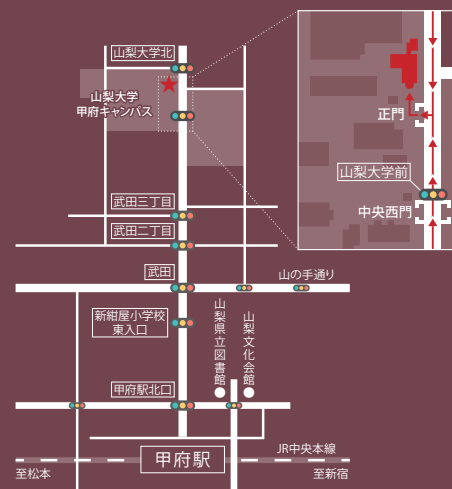


利用案内

	展示コーナー(1階)	大村記念ホール(2階)
開館時間	午前10時～午後4時	午前9時～午後8時
休館日	火曜日 大学の夏季休業期間 年末年始 ※臨時で休館となる場合がございます。ホームページをご確認ください。	年末年始
入館料・使用料	無料	基本使用料 1時間3,000円 ※使用方法によって料金が異なる場合がございます。詳細は本学術館事務室へ問い合わせるか、ホームページをご覧ください。

交通アクセス

[マ ッ プ]



- [駅から徒歩] JR甲府駅北口より武田通りを北上
所要時間約15分
- [バス] JR甲府駅北口バスターミナル2番乗り場
「武田神社」または「積翠寺」行き
バス停「山梨大学」下車
- [車] 中央自動車道「甲府昭和IC」で下りて
一般道を北東の方向へ
国道20号線またはアルプス通り経由で約20分
なお、駐車スペースが少ないため、公共の交通機関のご利用をお願いします。

大村智記念学術館

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL **055-220-8059** FAX 055-220-8378
<https://omura-museum.yamanashi.ac.jp/>



大村智記念学術館

SATOSHI ŌMURA MUSEUM

学術・文化・芸術…
人々が集う新たな交流の場に



大村智記念学術館フロアマップ

1 大村博士展示コーナー

大村博士が山梨大学に在学されていた当時の写真や卒業論文、数々の研究業績、ノーベル賞受賞に関連する資料などを展示しており、大村博士の軌跡をたどることができます。



A 至誠惻恒
学術館入口に横に建立された石碑。「至誠惻恒(しせいそくだつ)」とは、真心と慈しみの心を持つてば物事をうまく運べるという教え。揮毫:大村博士

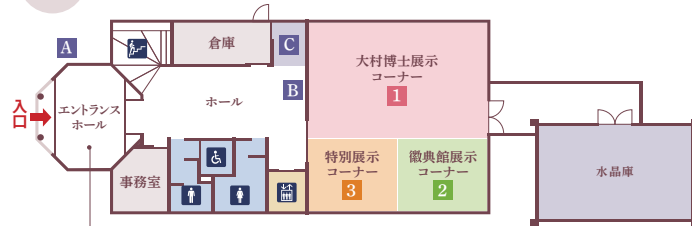


B 大村博士胸像
高さ180センチのブロンズ製。米ウエスレーヤン大学から1994年に名誉理学博士号を授与されたときの姿



C 大水晶
六面体の結晶面を完全な形で備えた、世界的に数少ない大型水晶。水晶の長さ97cm、最大幅径30cm、周囲80cm、柱面の最大幅18cm、重量77.5kg

1F



ノーベル賞授賞式でカール16世グスタフ・スウェーデン王国国王陛下からメダルと賞状を受け取る大村智博士(左) 2015年12月10日(写真提供:共同通信社)

2 微典館展示コーナー

山梨大学のルーツは江戸幕府が開設した昌平黌の分校「微典館」にあります。18世紀末から現在に至るまでの時代の変遷を表す資料や微典館碑及び扁額の拓本などを展示しています。



3 特別展示コーナー

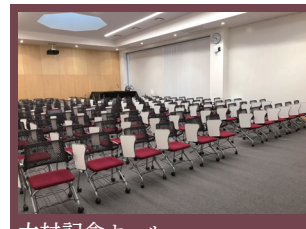
山梨大学の学部やセンター、附属施設など様々な分野における貴重な学術資料や教育研究の成果物などを展示し、本学の歴史や伝統、特色ある取り組みを紹介しています。(展示品は定期的に入替えます)



2F



学術館入口外観
山梨大学教育学部の前身である微典館二代目校舎の八角三層をモチーフ



大村記念ホール
講演会やシンポジウムをはじめとした、学術・文化・芸術活動等に利用可能な多目的ホール(収容定員130名、床面積168㎡)

水晶庫

大村智記念学術館に併設する水晶庫では、山梨大学が所蔵する世界に類のないほど貴重で見事な水晶類の数々をご覧ください。

山梨大学は、山梨師範学校当時の1920年(大正9年)に、薬種商であり鉱物の収集・鑑定に携わっていた百瀬康吉氏から、学術的にも工芸品としても大変貴重な水晶及び水晶加工品の寄贈を受け、これらを保存・展示するために、1927年(昭和2年)に鉄筋コンクリート造りの水晶庫を建設しました。

昭和30年代後半には、宝飾業に携わっていた石原宗美氏、石川文一氏から、最新の加工技術を代表する水晶装身具・工芸品を寄贈いただきました。

水晶庫では、本学で所蔵する約170点の水晶類の中から特に学術的価値の高い水晶や水晶加工品数十点を展示しています。なお、その他の水晶類は現在、山梨ジュエリーミュージアム(山梨県防災新館やまなしプラザ内)に展示されています。

山梨県では古くから水晶が採掘され、それに伴って水晶の加工技術が工夫された結果、水晶の宝飾・工芸品の生産は本県の代表的な地場産業となっており、水晶は富士山・ワインと並んで山梨県のシンボルとなっています。



水晶硯
竹森産単結晶の手彫り 1873年(明治6年)製作



双晶結晶
半透明の平板状日本式双晶



水晶峠産水晶晶族
長柱状結晶の群晶からなり、一部草入り